

平成25年度第1回奈良県がん予防対策推進委員会（受診率向上部会）

議 事 要 旨

日時：平成25年8月2日（金） 午後2時～4時

場所：奈良県医師会館 2階会議室

出席者：

（委員）大石元、堀川巳清、松田武彦、森高香代、下谷訓子、松山神恵、今田順子
吉岡敏子、浦嶋偉晃、

概要：

- （1）がん検診受診率（24年度速報値）について
- （2）平成25年度がん予防対策の取組について
- （3）今後の取組について

で各々の項目について事務局から報告がなされた後、意見交換が行われた。

（1）がん検診受診率（24年度速報値）について

- ・平成25年6月時点での各市町村から報告された受診率（速報値）について報告する。
5がんすべてが、前年度より受診率が上がっている。特に大腸がんは18.5%で、昨年の全国平均より高くなっている。
乳がんはH22年度より全国平均よりも高くなっている。
胃がんは安堵町・橿原市、肺がんは安堵町・橿原市、大腸がんは奈良市、子宮がんは、斑鳩町・奈良市、乳がんは斑鳩町が、市町のみ受診率では高い。

・がん検診クーポン利用率について

- 子宮がん、大腸がんは、23年度より少し増加している。
無料クーポンの利用率は、県平均で子宮24%、乳がん22%、大腸がん13%。

○市町村のがん検診受診率について、企業で受けた場合、反映されないと考えるが、どう捉えたらよいか。

→今回報告した受診率は、市町村で実施した検診の受診率であり、企業等で受けた場合は、数値に反映されていない。県のがん対策推進計画の中には、国民生活基礎調査の結果に基づく検診受診率が記載されており、その数値には企業で受けた人間ドッグ等の数値も含まれている。

○県外で働く人が多い奈良県において、平日に仕事を休んで検査キットや結果を取りに行くのは困難であると感じる。土日に受診可能な市町村と不可能な市町村との間で、クーポン利用率の差はでているのか。

→分析できていない。

○山間部で受診率が高いのは、対象者数が少ないためあまり参考にしなくて良いと思う。問題は、奈良市や橿原市等の人口多いところで受診率を上げるべき。胃がん、肺がんの受診率をみると橿原市と他市の受診率に差がある。この差についての解釈はどうしたらよいか。

→橿原市は、対象者に個別通知をしており、また個別検診を実施しているため受診率に差がでていると考えている。

○すべてのがんで言えることだが、集団検診ではなく、個別検診を実施できる医療機関を増やすことが大切なのではないか。

○集団検診が多い胃がんについては、国が推奨している検診がバリウム検査のみであり、医療機関の傾向として、透視の機械からカメラに医療機器を変更している事があり、胃がん検診のできる医療機関が少なくなっている等、増やすのが困難な現状がある。

○肺がん検診については、専門の読影医を必要とし、2重読影が必要であること、国の補助金がなくなったこと、検診を否定する社会的風潮があったことなどの要因もあり、受診率が低く、また、検診を実施出来る個人の医療機関も少ないと考えられる。

(2) 平成25年度のがん予防対策の取組について

平成25年度の県のがん予防対策事業について事務局から報告され、意見交換がなされた。

○事業の予算的な面はどうなっているか。

→がん検診個別受診勧奨、再勧奨モデル事業については県 1/2、国 1/2 の費用負担となっている。市町村個別介入については特に予算なし。

○受診勧奨、再勧奨事業のリーフレットの内容を見ていて分かりやすく良いと感じた。受診者を3つのステージに分けてリーフレットの内容を変えるというのも良い発想だと思う。しかし、リーフレットを配布する前に、対象者がどのステージにいるのか調査する必要があり、実務的には困難な面も多いと考える。

○受診勧奨、再勧奨については、今年度はモデル事業であるが、今後もずっと続けてくのか。

→今年度、効果検証をし、受診率向上が明確に向上する等の成果があれば、来年度以降、他の市町村に波及させていく方向で考えている。

○モデル事業でボランティアに対するがん予防推進員養成講座を王寺町で実施されるが、これは今年度だけの事業か。また、認定証等を発行するのか。

→がんの知識に関する講習とグループワークの2部構成となっている。今後県内に波及させていき

たい。認定証ではなく修了証を出す予定。

○次年度の事業案に記載されている県で作成するポスターやちらしをがん検診応援団を含め企業等でも利用することは可能か。

→次年度事業であるため、予算も含めどのような内容のものにするのか決定していないが今後検討したい。

本年度の事業として、がん検診を受けよう！奈良県民会議の中で、がん検診受診向上のためのポスターの作成を考えているため、そちらのポスターの配布でご協力いただきたい。

○学校教育におけるがん検診の教材の作成とあるが、これは配布するのか。

→詳細はまだ決まっていないが、今年度中に、教材を作成するための委員会を作ることを検討している。今年度は予算がないので、次年度予算化を考えたい。

○検診の受診率が高いため、がんによる死亡率も低い、逆に、検診の受診率が低いために、がん f による死亡率が高いということは言えるのかデータを示していただきたい。

○受診率向上の次の段階にはなるが、精密検査をする医療機関がなかったり、精度管理が十分でないといった話を聞くが、精度管理はどのように向上させていくのかお伺いしたい。

→精度管理については、厚生労働省がガイドラインを作成しているが、なかなか守られていない現状がある。がん検診の受診率と精度管理は表裏一体の関係なので、精度管理をしっかりと行っていくことも重要であると捉えている。

○仕事を休んで検診を受けるのは、困難であるため、土日での検診の実施、および信頼のあるかかりつけ医からの検診の受診勧奨があればよいと考える。